

社会基盤工学コース



社会基盤工学

専門を学び、専門を超越した デザイン的思考により、 安全かつ快適な市民生活、 持続型社会を描く学びの場。



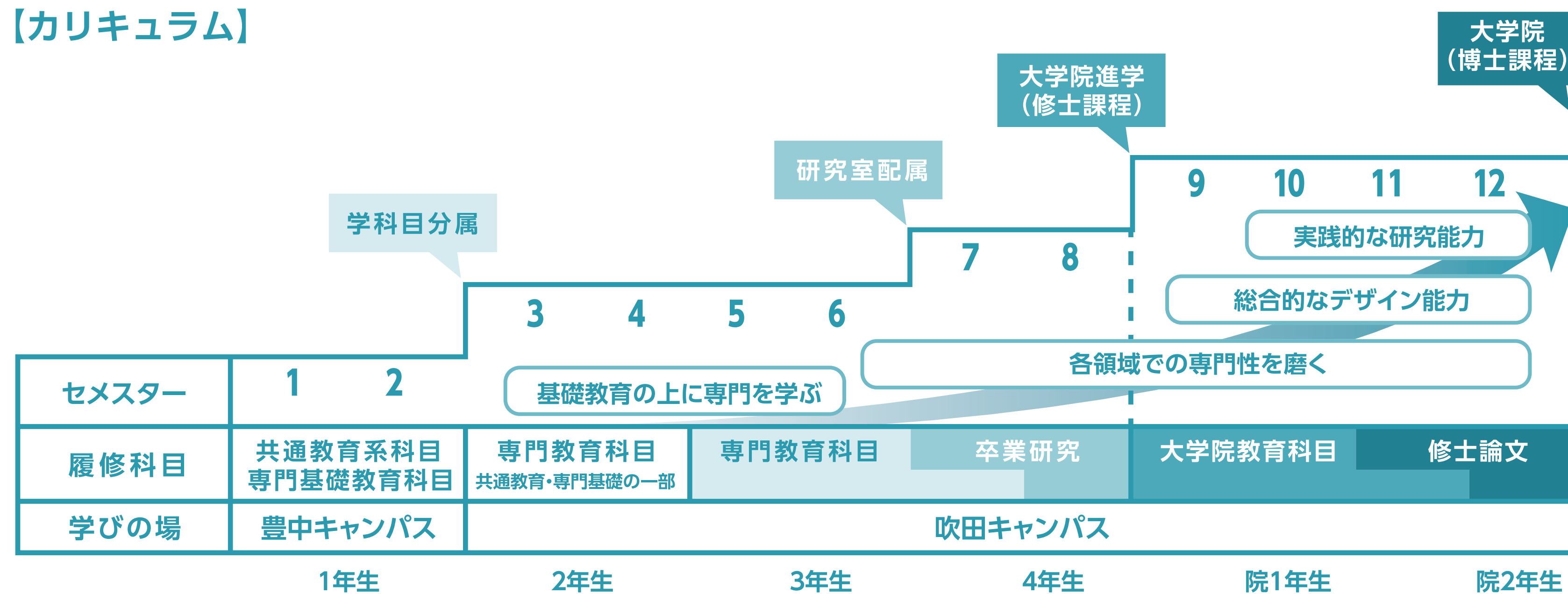
社会基盤工学は、社会の中で人間が人間らしく生活するために必要なあらゆる技術に関わっています。そのため、社会基盤工学のことを英語では市民工学という意味の、シビル・エンジニアリング(Civil Engineering)と呼んでいます。その具体的な対象は、道路・鉄道(橋・トンネルを含む)、港湾・空港、河川・上下水道施設、エネルギー(電気・ガス)関連施設、情報関連施設など、人間が生活するのに不可欠な公共的施設です。現在、シビル・エンジニアリングの力点は、社会経済活動の利便性向上、安全・安心な社会生活を営むための防災、環境の保全・再生、循環型社会の形成、人々の福祉の向上に貢献するバリアフリーやユニバーサルデザインなどに置かれ、われわれの生活により密接に関わるようになってきています。

このような動きに呼応して、社会基盤工学科目では、シビル・エンジニアリングの基礎的な科目(設計・材料学、構造工学、地盤工学、海岸・国土保全工学、みず工学、交通・都市計画学、社会基盤マネジメント工学)を幅広く習得することに加

え、より高度な専門科目の学習を通じて、社会基盤に関わるあらゆる問題に対応できる実践的な知識と技術を習得します。これに加え、領域(教員と学生が集まって研究を行う単位の一つ)に配属された後の卒業研究や大学院では、自ら課題や問題点を見だし、様々な角度からそれらを分析し、ときに専門を超越し、総合的に解決を図る高度なデザイン能力も育成します。豊かな自然環境の中で、安心して暮らせる持続可能な社会の基盤形成(デザイン)と活用(マネジメント)に貢献できる技術者をめざして、幅広い専門分野を学びます。

社会基盤工学コースでは社会基盤の役割が人間の幸福に資するものであるという観点から、単に工学技術だけでなく、社会、経済および環境に対する深い関心、柔軟かつ多面的な思考力、そしてそれらを活かせる意欲と行動力をもった責任感のある人を求めています。

【カリキュラム】



社会基盤工学コースでは、デザイン学を学び、実践することができます。

大学正面へと延びる橋～阪大のシンボルに

